

和の光

宝塚市立西谷中学校



省略

■進路について考えよう～小論文対策V～

公立高校の推薦・特色選抜を受検する生徒のみなさんへ、前回に続いて「表やグラフ」を基に、小論文を書くパターンについて例題をあげてみますので、ぜひチャレンジしてみてください。

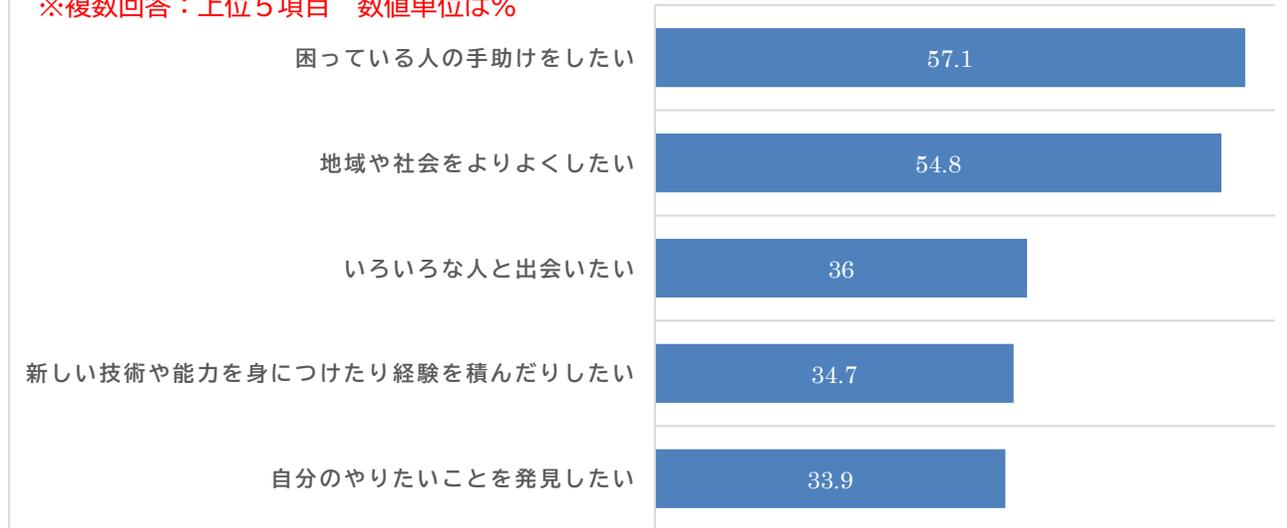
問1. 次の資料は、日本の13歳から満29歳を対象にしたある調査で「ボランティア活動に興味がある」と答えた人による回答をまとめたものです。この資料から読みとったことをもとに「ボランティア活動に期待すること」について、あとの注意にしたがって、自分の考えをまとめなさい。

【注意】

- ①二段落構成として、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験（見たことや聞いたこと等も含む）を踏まえてあなたの考えを書くこと。
- ②文章は原稿用紙に11行以上、13行以内で書くこと。
- ③原稿用紙の正しい使い方に従って、文字・仮名遣いも正確に書くこと。
- ④題名・氏名は書かず、1行目から本文を書くこと。

ボランティア活動に興味がある理由

※複数回答：上位5項目 数値単位は%



■進路対策～模擬面接が進んでいます～

2月の私立高校入試、公立高校の推薦・特色選抜の受験（受検）に向けて、学年での面接練習を終えた後、校長面接を行っています。学年での面接とは異なり、少し緊張気味の生徒もいますが、みんな前向きに面接に臨んでいます。模擬面接を終えた生徒の中には、「追加練習をお願いできますか？」と校長室に訪問してきた生徒もいます。そのような積極的な姿勢にとても心を打たれました。**（追加面接を希望する人は遠慮なく申し出てください。昼休みや放課後などできるだけ時間調整をして対応するようにします。）**多くの生徒が人生で初めての面接体験です。緊張や不安もあると思いますが、練習を重ねるたびに、受け答えがスムーズにできるようになっています。「打てば響く」という言葉がありますが、まさにそれが実感できます。

まもなく2月、入試が目前に近づいてきましたが、まずは「体調管理」をしっかりと行い、自信を持って受験（受検）に臨めるようにしましょう。

“できると思えばできる、できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。”
(Pablo Ruiz Picasso)

中学校卒業を前にした保護者の思い

校長 筒井 啓介

卒業式の日はお忙しいと思いますので、この連絡帳のことで最後にしたいと思います。

三年前に入学して以来、私の知らない学校での枝子の様子を毎日いっばい書いていただき、ありがとうございました。

筒井先生に書いていた枝子は思いませんでしたので、本音にゆだねていただき、楽しみに読んでおりました。

〇〇が一年生の時に担任していたにいておりました。〇〇先生に「枝子のことをお願いしたい」とお達家族の気持ちを伝えたところ、その時から今日まで感謝の思いで過ごしてきました。その三年間は、アツと言った期間にすぎないような気がします。

〇〇養護学校の文字を見て、胸に刺さる回数が多い。ほぼ同時に卒業の文字もあちこちで見られる様になり、時の流れがあまりにも速く、もう一度一年生から…と何回考えたことでしょうか。

先生方から枝子の事で御苦勞されているところは、お共の耳に入ってはきませんでしたが、枝子の調子の良し悪しで、お達家族が想像がつかない程、大変な日々だったのでは、と思っております。

三年生最後の参観に枝子の横に座らせてもらい、班の迷惑も考えずに固く最後まで座っていた日。

あの時、サレ、牛、…と班の友達の手袋人形の動物を、お達家族に枝子がフリフリ書き終るまで待っていてくれたこと、牛のうが、思いつく限り書いておくと、班の友達は、お互い何も言わないのに、それだけ空にうが書き、みんなの指の動きでうがを思い出した枝子、友達の自然なやさしさを見ることができました。

枝子は、今、自分の部屋で、河口のテレビ聴きながら、大きな声で歌っています。どんな思いで卒業式に臨むのでしょうか。

気長く、やさしく接していただき、〇〇先生はじめ、〇〇中学校の先生方と、〇〇中学校の大勢の友だちに、感謝の気持ちを持ちながら、枝子と心静かに卒業式当日を待たたいと思います。

ありがとうございました。

今後の枝子の人生に、いい出会いがあることを親として望んでいます。

間もなく2月になります。中学の教員になり長い年月が過ぎましたが、毎年この時期になると卒業式のことを頭に浮かび、一生に一度の卒業式、思い出に残る最高の卒業式を迎えさせてあげたい…と。

人生の中で最も多感な時期を生きる中学生、時には思い悩んだり、クラスの仲間と一緒に行事に取り組んで喜びや悲しみをわかちあったりと、振り返ってみれば中学3年間は、あっという間に過ぎたのではないのでしょうか。

右記の文章は25年前に私が担任していた3年生のクラスの保護者から、卒業式前にいただいたものです。当時私のクラスには枝子さんという特別支援学級在籍の女の子が交流（技術家庭科、音楽などの授業、給食、行事を共に過ごす）に来ていました。彼女はクラスの人気者で、男女問わず「えみちゃん」と常に声をかけられていました。苦手なことやできないこともたくさんあります。時には「先生、えみちゃんがだだをこねて動かへんから助けて」と言われては、クラスの女子と一緒に台車を持って迎えに（台車が大好きで、台車に喜んで乗ってくれました）行くこともありました。

3年生は義務教育終了後の進路に向けての取り組みがあり、大変なことも多いですが、中学校の中でも最も精神的に成長する時期で、苦勞をした分大きな成長があります。このクラスの生徒たちも受験という大きな山を乗り越えるために、仲間とともに切磋琢磨し、それぞれの希望する進路を勝ち取り、大きく成長して卒業をしていきました。

この当時の生徒たちも既に40歳になりますが、今でもこの手紙を読み返すと、「親が子どもの成長を願う優しさ、障害があっても頑張る生徒からクラスの生徒が学んだ優しさ…など」を身に染みて感じます。

西谷中の3年生の皆さんも、卒業まで1月ほどです。卒業後の進路はそれぞれに異なりますが、共に学んだ仲間とともに思い出に残る卒業式を迎えて欲しいと思います。また、私たち教職員も一丸となって、西谷中で学んだことに誇りを持って卒業してもらえるように努めて参りますので、保護者の皆様どうぞよろしくお願いいたします。